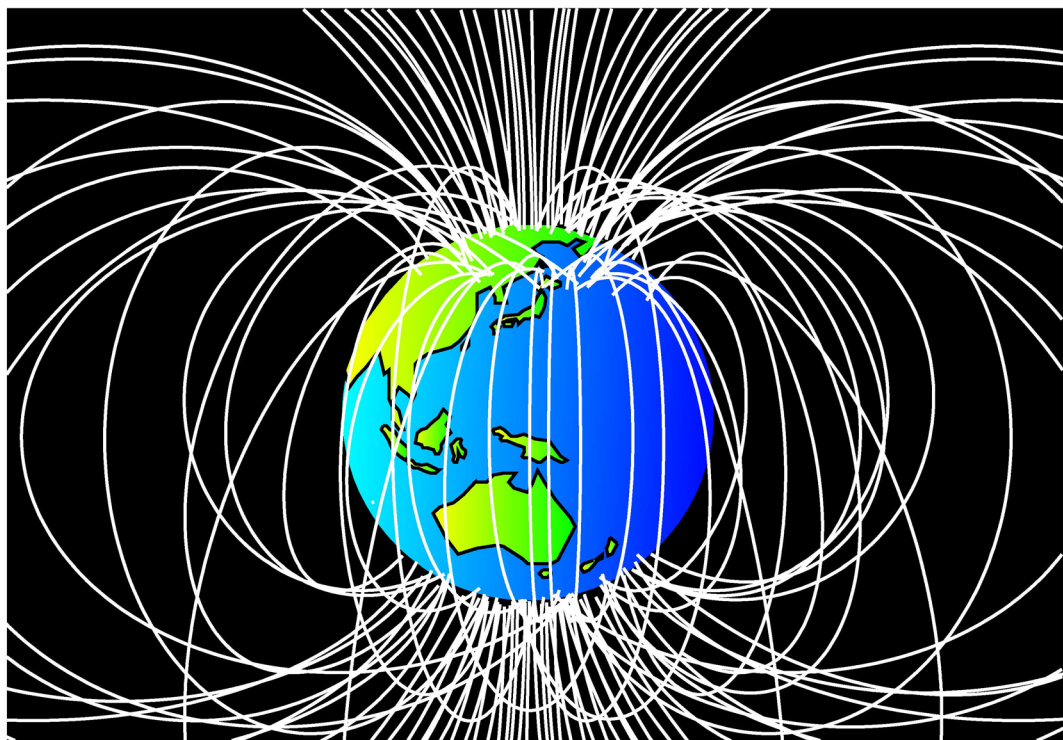


地磁気発生と 磁極逆転の私案

My idea of geomagnetic generation
and magnetic pole inversion



西川 正孝 著
Masataka Nishikawa

ブックウェイ

地磁気発生と磁極逆転の私案
**My idea of geomagnetic generation
and magnetic pole inversion.**

西川 正孝 Masataka Nisikawa

最近地磁気が逆転したことが分かる地層が発見されて世間を驚かせた。そして少し昔になるが、北極圏でマンモスが冷凍状態で発見され話題を呼んだ。その後、マンモスの胃の中から寒冷地であるにもかかわらず、温暖で生息する植物が発見されたり、日本でも恐竜やその時代の動物の化石もぞくぞく発見されている。今の学説では急激な気候変動のため、このような事が発生したとされている。太陽と地球の關係に於いて、マンモスが生きたまま、或いはそれに近い状態で急速冷凍するような、急激な気象変動は起こるだろうか？

まず、あり得ないと私は断言する。マンモスの胃の内容物は温暖地方の植物が残っているらしいことから、北極圏はかつて温暖だったと結論づけられているが、その温暖地のマンモスが胃の内容物を残したまま短い時間で急速冷凍するぐらいな急激な気候変動は絶対あり得ない。徐々に弱っていったのなら胃の内容物は無いし、あのような生々しい冷凍状態で残っているとは考えられない。またマンモスのような大きな動物は食べ物が豊富な地域でなければ生存は難しく、日本のように四季のあるような場所での恐竜の生存も難しい。

しかし日本で恐竜の化石が発見されたのも事実である。北極圏のマンモスの胃に内容物が残っていると言う事は、マンモスを乗せて陸地ごと移動したと考えた方がつじつまが合う。これらの事を総合して考えると、地殻が南北に180度回転したことにすれば、全てが当てはまる。もちろんまともには回転しない。かなり的大陸移動、新しく出来た陸地や無くなってしまったものもあるだろう。何と言っても地殻は地球の大きさから比較して余りにも薄すぎる。

〔参考〕地球の半径；表面の凹凸は大きいし多い。以下大凡の数値。

赤道半径で6 3 7 8 1 3 7 m

極半径は6 3 5 6 7 5 1 m

赤道半径は極半径よりも2 1 3 8 4 6 8 6 m大きい。

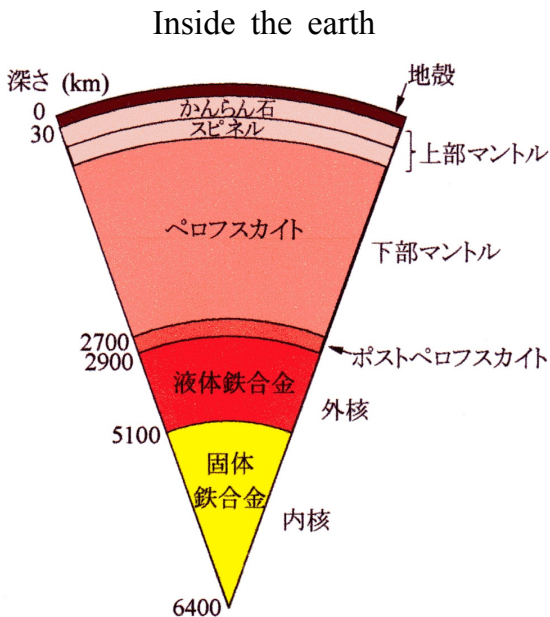
扁平率は2 9 8 2 5 7 2 2 2 1 0 1分の1

全くの球体でない事から回転楕円体と言われている。

地殻の厚さ；厚くても1 0 0 k m以下で均一で無い。

地殻は地球の半径の2 %以下、大陸地域では3 5 k m、
大洋では5 k m～1 0 k mと言われている。

〔1〕地球の内部・太陽風と地磁気



内部については誰も見た事が無く、あくまでも推測で、真実は不明。

どの研究部門とも地震波で調べたようだ。私はこれらのことを拝借して、これらを基準に考えを進める。

マントルは個体の岩石とされているが、地表から、深くなるほど高温になり、浅いところでも1600℃もある。岩石は特殊なものを除き融点は900~1000℃だから溶けて流動体になる

ると想像する。地震波だけでは分からない何かあるのではないかな。

地磁気逆転の私案もマントルを流動体として構想を進める。